

中山間地域の温泉地における歩行環境整備に関する一考察*

Study on pedestrian environment in hot spring-town of mountainous region*

塩田幸司**・田中尚人***・本田泰寛****

By Koji SHIOTA**・Naoto TANAKA***・Yasuhiro HONDA****

1. はじめに

わが国の中山間地域は多くの過疎地域を抱える一方で多様な自然や文化を有しており、人々を魅了する地域でもある。また近年の交通ネットワークの整備が中山間地域へのアクセスを向上させたことからみても、中山間地域はもはや「僻地」ではなくなりつつあるといえよう。よって人気の観光地においては、そこが中山間地域に位置するものであっても遠方から多くの観光客が訪れ活況を呈している。その反面、急激な観光地化に伴う諸問題に直面している地域も少なくない。そのような地域においては、本来そこが持ちうる「質」を維持しつつもいかにしてその活性化を図るかが焦点となっている。

本研究の対象地である黒川温泉（熊本県阿蘇郡南小国町）は九州山地の裾野に位置し、その独特の風情が人気を博し近年多くの観光客が訪れるようになった温泉地である。しかし狭小な地形ゆえ観光客の増加に伴う交通混雑が発生し、また温泉街における車両交通やサインの不案内さが歩行者の安全性や快適性を阻害する現状にある。黒川温泉のコンセプト「黒川一旅館」を実践するためには歩行環境整備は重点的に行われるべき施策であり、そのためには対象地における空間的特性や観光実態の把握等、空間と人に着目した調査・分析が必要である。

本研究の目的は、黒川温泉らしい歩行環境整備を提案することである。そのために、中山間地域に位置する温泉地の空間的特性を整理し、黒川温泉に来訪する観光客の主要な交通行動となる自家用車による観光行動実態をアンケート調査によって把握した。

2. 黒川温泉の空間的特性の整理

研究対象地について、その立地と地形から空間的特性を整理した。

(1) 対象地の概要^{1) 2)}

黒川温泉は阿蘇外輪山と九重連山の裾野、標高700m地点の溪谷に位置（図1）し、筑後川源流の田の原川沿い約4kmにわたって温泉街（旅館24軒）が広がっている。かつては山間の閑散とした温泉地であったがその活性化を図るため、趣向を凝らした露天風呂づくりや「入湯手形」の導入、植栽やまちなみ景観の整備という取り組みを地域ぐるみで行ったことが功を奏して次第に観光客が増え始め、現在では年間100万人ほどが訪れる九州でも有数の温泉地となった（写真1）。



図1 黒川温泉の位置



写真1 温泉街の様子

(2) 空間的特性の整理

a) 対象地の立地にみる特性

図2に対象地周辺の主要交通網を示す。近隣に鉄道は整備されていないため、来訪手段は自動車に限られる。公共交通機関としては長距離バスが運行されているが、中山間地という地理的条件と採算性の面から運行本数は少ない。よって自家用車で来訪する観光客が大半を占める状況にある。

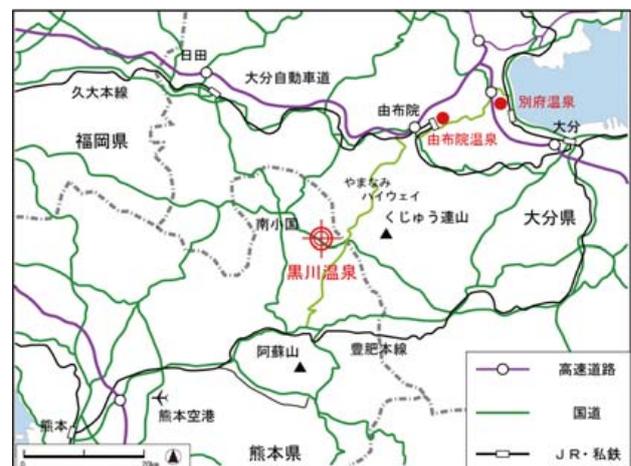


図2 対象地周辺の主要交通網

*キーワード：観光・余暇、空間整備・設計、地域計画、歩行環境整備

**学生員 学士 熊本大学大学院自然科学研究科

(熊本市黒髪2丁目39番1号、

TEL096-342-3579、FAX096-342-3507)

***正会員 博士(工) 熊本大学大学院自然科学研究科准教授

****正会員 博士(工) 熊本大学大学院自然科学研究科学術研究員

b) 対象地の地形にみる特性

図3に黒川温泉の中心地区を示す。温泉街は谷筋を流れる田の原川と川端通りを中心軸として山の両側に展開している。さくら通りは国道442号から温泉街へのアクセス機能を果たし、沿道に旅館や土産店が立ち並び川端通りは歩行者の散策路として機能している。

温泉街は起伏に富んだ地形に位置し、傾斜が急な坂道も存在することから脚力の劣る歩行者にとっては連続しての登坂が困難な場合がある。また限られた土地であるため道路幅員は狭く、駐車場容量も限られている。

このように交通施設容量が不足している状況の中で、観光客の増加に伴う流入車両の増加が、交通混雑や駐車場不足という問題を生じさせている(写真2)。



図3 黒川温泉中心地区



写真2 駐車場周辺での混雑状況

幅員の狭い道路における車両交通は歩行者にとって危険であり、また不明瞭な回遊ルートや案内地図・サインの不案内などは歩行者の回遊行動の妨げとなる。対象地内には複数の地域資源が点在しているものの、これらを結ぶ歩行者の回遊ルートが明確でなく、また複雑な地形が目的地までの距離感、立体感の把握を困難にしていることも考えられる。以上のことから黒川温泉においては、交通量の増加や歩行環境の未整備が、歩行者の安全性や快適性を阻害する現状にあるといえる。

3. 対象地における観光行動実態の把握

黒川温泉を訪れる観光客の特性を分析するため、アンケート調査をもとにその行動実態の把握をおこなった。

(1) アンケート調査の概要

黒川温泉を訪れる観光客の観光実態を調査するために、自動車を訪れた観光客に対してアンケート調査を実施し

た。なお調査日となったゴールデンウィーク(GW)期間中には、慢性的な駐車場不足を解消する目的で中心地区からやや離れた場所に位置するホテル跡地に臨時駐車場が設置された。この設置前後の状況を確認するために、駐車場利用者に対する意識調査もあわせて実施した。調査箇所としては臨時駐車場1ヶ所と、既存の駐車場の中で比較的使用頻度の高い3ヶ所の計4ヶ所を選定した(表1、表2)。

表1 アンケート調査の概要

		第1回	第2回	第3回
調査日		2007/4/28(土) 2007/4/29(日)	2007/5/3(木) 2007/5/4(金)	2007/5/26(土) 2007/5/27(日)
時間帯		10:00~18:00		
調査方法		現地配布・回収		
調査内容		性別、グループ人数、年齢、居住地 滞在時間、来訪回数、立ち寄り場所、立ち寄り観光地 利用した駐車場に対する感想		
配布数	駐車場A	161	208	
	駐車場B	99	91	82
	駐車場C	220	425	222
	駐車場D	35	70	49
配布数(総計)		515	794	353
回収率	駐車場A	120 (74.5%)	153 (73.6%)	
	駐車場B	86 (86.9%)	70 (76.9%)	67 (81.7%)
	駐車場C	169 (76.8%)	322 (75.8%)	165 (74.3%)
	駐車場D	31 (88.6%)	56 (80.0%)	40 (81.6%)
回収率(総計)		406 (78.8%)	601 (75.7%)	272 (77.1%)

表2 アンケート質問項目の概要

問1	男性ですか、女性ですか?グループの人数は?
問2	おいくつですか?
問3	どちらから、お出でになりましたか?
問4	黒川温泉では、何時から何時まで過ごされましたか?
問5	黒川温泉にお出でになったのは何回目ですか?
問6	黒川温泉内では、どこで、何をされましたか?
問7	ご利用になった駐車場の感想を教えてください。
問8	黒川温泉の他に立寄った場所があれば教えてください。
問9	黒川温泉についての印象を教えてください。

図4に調査対象駐車場の位置と概要を示す。このうち駐車場AはGW期間中(4/28~5/6)のみ運用された臨時駐車場である。本アンケートの調査対象は自動車で訪れた観光客であり、駐車場への入出庫時に配布、回収を行った。以下に、調査結果から得られた分析を述べる。

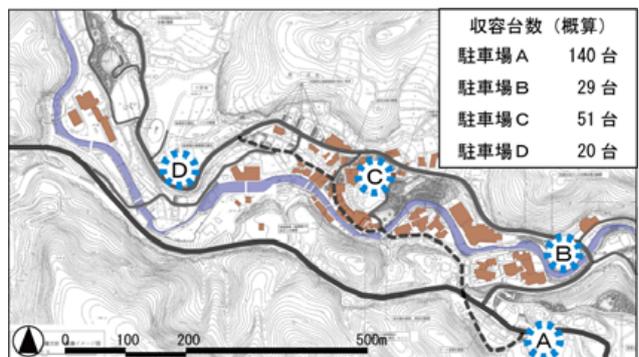


図4 調査対象駐車場

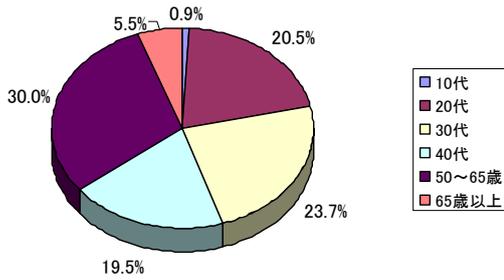


図5 観光客の年齢層

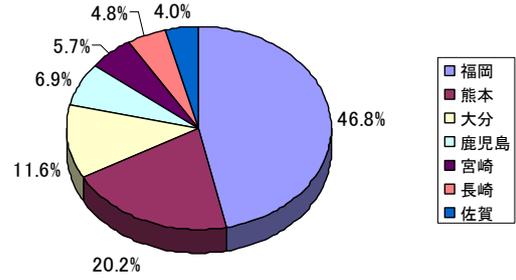


図6 九州地方の割合

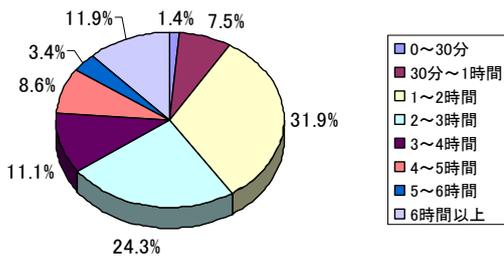


図7 黒川温泉での滞在時間

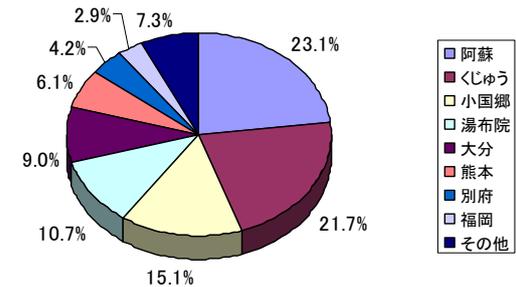


図8 他の立ち寄り地域

(2) 観光客の属性に関する分析

黒川温泉を訪れる観光客のうち半数は2人連れであり、年代別にみると50～65歳が3割を占める(図5)。居住地別にみると九州地方からの観光客が全国の6割を占める。九州地方単独でみると福岡からの観光客が4割を占め、熊本、大分がこれに続く(図6)。

(3) 観光行動に関する分析

図7に観光客の滞在時間を示す。平均滞在時間は3時間14分で、観光客の6割は3時間以内の滞在にとどまっている。黒川温泉は「入湯手形」を使った露天風呂めぐりが売りであるが、その時間内に湯めぐりを済ませて帰る観光客が比較的多いと言える。

図8に黒川温泉来訪前後における他の立ち寄り地域を示す。立ち寄り地域は阿蘇(阿蘇外輪山内部)、小国郷(小国町・南小国町)、くじゅう(九重町及び近隣観光地)、湯布院、別府とそれら地域を除く隣県に区分した。立ち寄り地域は阿蘇とくじゅうが各々2割を占め、小国郷、湯布院がこれに続いている。

黒川温泉周辺には阿蘇やくじゅう地域に多様な観光地が点在し、またやまなみハイウェイ等のドライブコースもあることから、それらの観光地を経由して自家用車2人連れで黒川温泉に立ち寄り、名物の露天風呂めぐりを短時間で楽しんで帰る観光客が多いと言える。

に関するアンケート結果から、歩行環境整備のあり方を考察した。

(1) 駐車場の利用実態に関する分析

図9に各駐車場の平均駐車時間を示す。図9より駐車場A・Dと駐車場B・Cにおいて平均駐車時間に差異がみられた。このうち、駐車場B・Cにおいては来訪2回目以上の観光客の利用が6割を占めるのに対し、平均駐車時間が比較的少ない駐車場A・Dにおいては初回来訪者の利用が5割以上を占めることがアンケート結果からわかった。駐車場B・Cは温泉街の中心付近に位置するのに対して駐車場A・Dはやや郊外部に位置しているため、これらの立地条件がこの結果に影響を与えた要因と考えられる。

郊外部の駐車場は初回来訪者が多く、また駐車時間も短い傾向にあることから、それら観光客に対するサイン計画など利用者の特性に応じた整備が必要である。

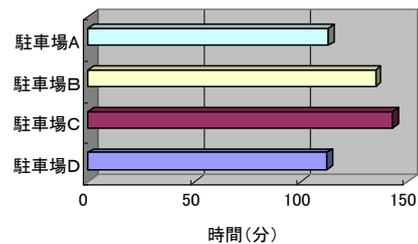


図9 各駐車場の平均駐車時間

4. 歩行環境整備に関する考察

駐車場の利用実態と温泉街における観光客の行動実態

図10に駐車場A・Cにおける利用者意識(第2回調査時)を示す。各駐車場における利用者意識を把握するため、駐車場利用者に対する意識調査を実施した。「広

い」「狭い」「遠い」「近い」「便利」「不便」「不案内」の各項目に分類し、複数回答とした。図 10 は調査結果の一部を示したものである。駐車場Aについては「広い」「狭い」「便利」「不便」の項目について肯定的な意見がみられたが、駐車場Cについてはどちらの項目についても否定的な意見がみられた。

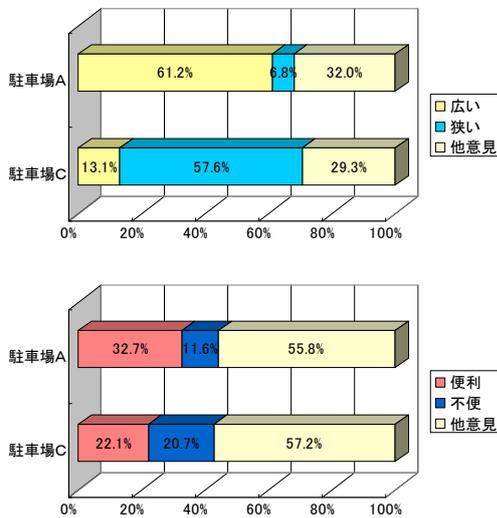


図 10 駐車場A・Cにおける利用者意識の比較

利用者の直接的な意見としては、駐車場Aについては「臨時駐車場があり助かった」という意見が聞かれた一方で、「駐車場と旅館を結ぶシャトルバスがほしい」という意見が聞かれた。これは駐車場Aが温泉街からやや離れた場所に立地するための意見であると思われる。

駐車場Cについては駐車待ちの車両による混雑や駐車場の狭さについての意見が聞かれた。駐車場Cは温泉街の中心部に位置し、また駐車場内に観光案内所を併設しているため温泉街の回遊に便利であることから休日には自動車が集中し、周辺道路が混雑する状況にある。

表 1 のアンケートの配布・回収枚数から駐車場A～D全体に占める駐車場Cの利用率を単純に比較すると、駐車場Aが設置された第1・2回調査時は4～5割を、既設の駐車場B～Dのみであった第3回調査時は6割を占めている。このことより、既設の駐車場の中でも駐車場Cの利用率が高いことがわかる。

(2) 歩行環境整備の方向性について

a) 温泉街における観光実態の把握

図 11 に温泉街における観光客の主な行動内容を示す。「温泉に入った」「散策をした」「お土産を買った」の3項目について複数回答とした。その結果、「温泉に入った」と答えた人が少ない一方で、温泉に入らずに散策や土産の購入などで滞在を済ませた人が4割を占めることがわかった。混雑で入浴制限がかけられていたことや、温泉街の雰囲気を楽しむため散策のみを目的とした観光客の存在などがこの結果の要因として考えられる。

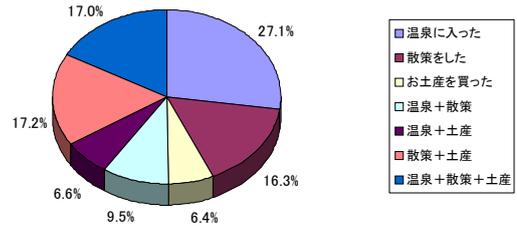


図 11 温泉街での主な行動内容

b) 観光客の意識にみる歩行環境のあり方について

アンケート調査の自由意見欄からうかがえる観光客の意識として、黒川温泉の「質」の重視と維持を望む意見が特徴的であった。「観光地化せず、この雰囲気を保ってほしい」という意見の一方で、温泉街における交通混雑や歩行者への不案内について不満の声が聞かれた。

黒川温泉の最大の魅力は「温泉」である。中山間地域という特徴的な空間の自然や景観資源を維持しながらも温泉地として観光ニーズに応える必要があり、それは「不易流行³⁾」の思想に相通ずるものとする。そのため歩行環境整備は、黒川温泉の空間的特性と観光客の特性に応じたものでなければならない。交通混雑緩和のための駐車場運用に関する工夫や駐車場から温泉街へ至る歩行者軸の見直し、そして温泉街における回遊性の把握などの検討を重ねたうえで、黒川温泉における「空間」と「人」に見合った歩行環境の整備が望まれる。

5. おわりに

本研究では、黒川温泉の空間的分析から駐車場容量の不足や歩行環境における問題点を指摘し、アンケート調査を基にした観光行動分析からそれら問題点を実証した。本研究の方向性に則った具体的な整備施策を提案するためには、歩行主体の目的や意識とそれを内包する環境についての詳細な調査・分析が必要であり、それらを考究することが今後の課題である。

謝辞

本研究では、黒川温泉観光旅館協同組合並びに(株)エスティ環境設計研究所の方々に調査の協力を得ました。記してここに謝意を表します。

参考文献

- 1) 熊本日日新聞情報文化センター：黒川温泉「急成長」をよむ、熊本日日新聞社、2000
- 2) 後藤哲也：黒川温泉のドン 後藤哲也の「再生」の法則、朝日新聞社、2005
- 3) 中村良夫：風景学入門、中公新書、1982